

## 先人の努力の中に未来へのヒント

私は、先週末から日曜日まで、清里にいました。私の主宰する『青年塾』東クラスの講座を清里で開いたからです。塾生のほとんどは、清里に来るのが初めて。中には、山梨県を訪ねるのが初めての人もいました。私のように、定期的に山梨に来ている者からすれば、「こんな良い地に来たことがなかったとは、気の毒に」とさえ思います。どうやら、私も半分ぐらいは、<sup>〃</sup>山梨県民の意識<sup>〃</sup>が備わってきたのかもしれませんが。

今回は、八ヶ岳ロッジと萌木の村を研修会場として、講座を開催しました。何より、八ヶ岳山麓の魅力に取りつかれた人達の進めている様々な企画は、魅力あふれるものでした。<sup>〃</sup>トレラン<sup>〃</sup>といった言葉も、今回初めて耳にしました。山梨の豊かな自然があるからこそ生まれてきた発想だと聞き、魅力を再発見した思いでした。

新しい<sup>〃</sup>山梨ブランド<sup>〃</sup>が、次々に生まれています。時代と共に呼吸する魅力に溢れたアイデアや企画などが、具体的な形になりつつあります。<sup>〃</sup>山梨ブランド<sup>〃</sup>もまた、進化の過程にあるのだと教えられました。

### 豊かな感性がなければ、山梨ブランドは見つけれない

諸君の感性が問われます。諸君に豊かな感性がなければ、魅力的な宝物を発掘できません。宝物の値打ちは、価値に気付く人にしか分からないのです。その意味でも、諸君が、どのような<sup>〃</sup>山梨ブランド<sup>〃</sup>を発掘するか、私は大変楽しみにしています。

今回の<sup>〃</sup>清里講座<sup>〃</sup>では、清里開発の二人の偉大なる人物について学びを深めました。諸君は、ポール・ラッシュ、安池興男さんの名前を聞いたことがありますか？今日の私達があるのは、「先人のおかげ」。まさに、偉大なる先人がいたからこそ、今の私達があることを改めて肝に銘じる学びができました。諸君にも是非学んでいただきたい人物です。

安池興男さんは、かつて、小河地ダムの湖底に沈んだ丹波山村と小菅村の人達が清里を開拓した時、県の担当職員でした。私財を投げ打って、種を買い、肥料を手配したのです。この人の本気さは、「苦労を共にしてきた村の人達を見捨てるわけにはいかない」と、広島への栄転を断ったことです。その『志』が、辛苦に耐える人達の心をとらえました。今も、開拓者達が建立した墓が、清里にあります。

もう一人、ポール・ラッシュ。高原に住む貧しい人達が自立できるようにと、生涯懸けて、清里開発に力を尽くした思いもまた、まぶしいばかりです。「最善を尽くせ。そして一流であれ」。その言葉を、今の時代に生きる山梨県民は、改めて肝に銘じたいものである。過去に苦労した人達の思いと実践の中に、未来へのヒントがあるのです。